

道労連30周年記念集会

原点学び新たな前進へ

レセプションに各界から祝辞・メッセージ

道労連は1989年11月27日に結成され、今年で30周年を迎えました。11月30日に「道労連結成30周年記念集会」が札幌で開かれ、夜は「レセプション」で30年間のあゆみを振り返るとともに新たな前進をめざす決意を固めました。

記念集会では、三上友衛議長が「この集会は、道労連結成の原点を学ぶことと道労連の今日的役割を考えるために開いた。道労連を強く大きくすること、企業内組合の弱点を克服すること、政策力を強化すること、平和・民主主義を守るために新たな出発点にしよう」とあいっしました。このあと、第2代議長の山口康夫さんが記念講演し、「道労連が結成された1989年は昭和天皇の死去、消費税の導入、泊原発の稼働、ベルリンの壁崩壊など歴史の節目だった。結成当時と比べて、労働者の賃金はほぼ同じで、非正規労働者が817万人から2120万人に増え、大企業の労働分配率が低下する中で内部留保は5.3倍になるなど貧富の格差が拡大している」ことを明らかにしながら、「たたかう労働運動のセンターとして道労連を結成し、一致する課題での共同の運動を発展させるためにとりくんできた」と強調しました。そして、「国鉄闘争」を国家的不当労働行為とのたたかいとして、また労働運動再生の環として全力でとりくんだことなどを振り返り、最後に「怒りを持続することがたたかう力であり、要求実現に執念をもってたたかいを強めてほしい」と期待を述べました。引き続き、4人のパネラーによる「パネルトーク」をおこないました。

レセプションでは、全労連の小田川議長、共産党の紙参議院議員や戦争させない北海道委員会、戦争させない市民の風・北海道などから祝辞が述べられ、鈴木直道北海道知事、立憲民主党、国民民主党、社民党からメッセージが寄せられました。

JR北海道が年末一時金2.025か月を回答

JR北海道は11月29日に、年末一時金の回答を示しました。回答は「基準内賃金の2.025か月分（昨年と同率）で、平均支給額（全一般職社員）は512,252円です。また、スタッフ・シニアスタッフ・エルダースタッフについては1.0125か月分、月平均20日以上×6か月のフルタイマーは1.0125か月分（+1年につき10,000円加算/30,000円限度）、月平均20日以上×3か月のフルタイマーは0.50625か月です。北海道鉄道本部は妥結しました。

栄光運輸分会が暖房手当・年末一時金妥結

暖房手当・世帯主135,000円/年末一時金2.5か月

釧路地域支部栄光運輸分会は11月15日に、2019年の暖房手当と年末一時金について妥結しました。暖房手当は、世帯主135,000円、準世帯主101,250円、単身者67,500円で、再雇用者については世帯主101,250円、準世帯主75,938円、単身者50,625円（いずれも前年同額）です。年末一時金は「基本給×2.5か月」（前年同率）で、再雇用者などには支給されません。

燃料手当・寒冷地手当と年末一時金闘争の報告をお願いします